



学校だより

令和8年 4月 7日

東京都立村山特別支援学校

校長 阿部 智子

〒208-0012

武蔵村山市緑が丘 1460 番地 1

電話：042-564-2781

さて、8年度が始まりました。本校舎の工事が本格的に動き始めます。

令和8年度が始まりました。今年の桜の開花は例年より早く、卒業式に美しく咲き誇っていました。4月になって曇り空が続き、花散らしの雨で、桜の花びらが舞い散る入学式となりました。私は今年1月に、目指していく漢字として「実」という漢字を選びました。「実（じつ）」の伴った、みのりのある令和8年度を進めてまいります。



【始業式、入学式での四字熟語の真意とは…】

始業式に3つの四字熟語の話をしました。「桜梅桃李（おうばいとうり）」「雨後春筍（うごしゅんじゅん）」「春和景明（しゅんわけいめい）」です。

「桜梅桃李」：別々の木に咲く美しい花、他人と比べることなくオンリーワンの自分を磨いていくこと。「雨後春筍」：雨が降った後、暖くなるこの季節にぐんぐん成長する春のたけのこのこと。この季節は、様々なものが大きく成長していく季節。新しい出会いの時を大切に全て楽しみながら成長していきたいです。というお話をしました。そして「春和景明」：春の日のおだやかで日差しが明るい様子のこと。これは、始業式に児童・生徒に話し、入学式でも、私が、校長式辞の冒頭にお話しした、春の日の美しい情景が浮かぶ四字熟語です。この四字熟語には、お話の続きがあります。

この「春和景明」は、中国、北宋（ほくそう）の范仲淹（はんちゅうえん）が1046年に書いた散文「岳陽樓の記（がくようろうのき）」の中にあります。名勝・岳陽樓は、時節によって人を憂えさせ、また楽しませもする。しかし、真に優れた人物は、環境や個人のその時々々の立場によって感情を左右されてはならず、「心配ごとは人々より先に心配し、楽しみごとは人々よりも遅れて楽しむ」ものである、というものです。

美しい季節の移り変わりの中にあっても、現状をきちんと精査し、判断しなければならず、楽しみは後から楽しむこと、「後樂園（こうらくえん）」という言葉はここから来ていると言われています。

4月は出会いの月です。新たに児童・生徒を迎え、教職員の顔ぶれも昨年度と変わりました。4月だからこそ、心おだやかに、令和8年度をどのように過ごすのか、実りのある1年とするための準備をじっくりと精査しなければならないと、校長として毎年、この四字熟語を噛み締めています。縁あって今年度、村山に集まった「チーム村山」の児童・生徒、そして教職員が、安全・安心に1年間過ごしていけるよう、実りある「都立村山特別支援学校」を構築してまいります。

【様々な職種、職層からなる「チーム村山」として頑張れること】

就学・進級・入学された児童・生徒の皆さん、おめでとうございます。保護者の皆様、どうか、お子様の成長のために、我々村山特別支援学校の教職員と共に、手を携えて御協力いただくと幸いです。

令和8年度は、小学部7名、中学部17名、高等部9名、計33名の新入生を迎えました。全学級数は43学級、全校児童・生徒は117名です。

教職員は、校長、副校長2名、教育指導系職員106名、行政系職員38名、計147名でスタートします。

主幹教諭、指導教諭、主任教諭、教諭、養護教諭、非常勤教員で78名。学校介護職員、ICT支援員、スクールカウンセラーで28名。行政系は、経営企画室長、主任、主事、主任栄養士、栄養士、看護師（常勤、主任非常勤、総合非常勤、非常勤）、バスクラーク、スクールバス安全運行支援員で38名と、実に様々な職種、職層からなります。このほかにも、非常勤講師、外部専門員、給食調理員などチームとして村山特別支援学校を支えています。今年度も、この緑が丘校舎での1年となりますが、学習指導要領に基づいた根拠ある授業づくりを行ってまいります。児童・生徒が、明るい笑顔でオンリーワンの花を咲かせるための充実した1年となるように、全校教職員一丸となって教育活動に取り組んでいきます。どうぞよろしくお願いいたします。

校長 阿部 智子

「村山 STYLE」 3年目！

児童・生徒が自分の成長を実感できるように。

仮設校舎で3回目の春を迎えました。皆様、御入学・御進級おめでとうございます。
村山特別支援学校で3年目を迎えます 副校長 清水 明美（しみず あけみ）です。
今年度は、中学部・高等部の担当となります。土田副校長と連携しながら、小学部とも関わってまいりますので、よろしくお願いいたします。

「村山 STYLE」も3年目に突入しました。今年度も、より一層、学習指導要領に準拠し根拠に基づいた授業作りに取り組んでまいります。昨年度は、集団授業の中で「待つ」時間を大切にし、その中で、友達の様子を観察したり、自分の考えを整理したりしながら、自分自身の知識として身に付けていくことを目指す。とお伝えしました。今年度は、その知識を実際に日常生活や学習活動に生かしていけるように取り組んでまいります。物事を失敗しないように・させないように、つい慎重になりがちですが、「失敗は成功の基」！多くのことにチャレンジしながら、児童・生徒が課題を乗り越えるために、考えていけるように指導します。自ら考えることで次のステップに進むこと、自らが発信したことを受け止めてもらい、よりコミュニケーションを図ろうと思うことを目指し、一人一人の課題を考えます。それにより、児童・生徒一人一人が自分の成長を実感し自信をもてるように教育活動に取り組んでまいります。今年度も、本校の教育活動に御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

副校長 清水 明美

着任の御挨拶

皆様、はじめまして。この4月に着任しました、副校長の土田 委弘（つちだ ともひろ）です。小学部を担当いたします。3月までは、世田谷区にある都立光明学園にいました。都立光明学園は、肢体不自由教育部門と病弱教育部門の併置校で、寄宿舎や病院内分教室もある大きな学校でした。

実は今から遡ること30年ほど前、当時は都立村山養護学校と呼ばれていた、この都立村山特別支援学校に新規採用者として採用され、10年ほどお世話になっておりました。思い出深い当時の校舎は改築に向けて解体され、現在は、すっかり更地になってしまって当時を思い出す縁もありませんが、「養護学校」から「特別支援学校」と名称が変わったことで、多くの学校の校歌が変わった中、この村山特別支援学校の校歌は当時のままで、とても懐かしく感じています。都立村山養護学校の後は、都立八王子特別支援学校、都立八王子西特別支援学校の開設準備室、都立八王子西特別支援学校、都立中野特別支援学校と知的障害の特別支援学校を経て、都立光明学園で副校長となり3年間務めて、村山にやってきました。

30年前、新米教師として右も左もわからなかった私を育ててくれたこの学校に、こうして再び戻り、今度は副校長として「村山の仲間たち」の成長を支えられることに、不思議な縁と大きな喜びを感じています。子供たちが毎日「学校、楽しい！」と笑顔で通えるよう、全力で取り組んでまいります。

副校長 土田 委弘